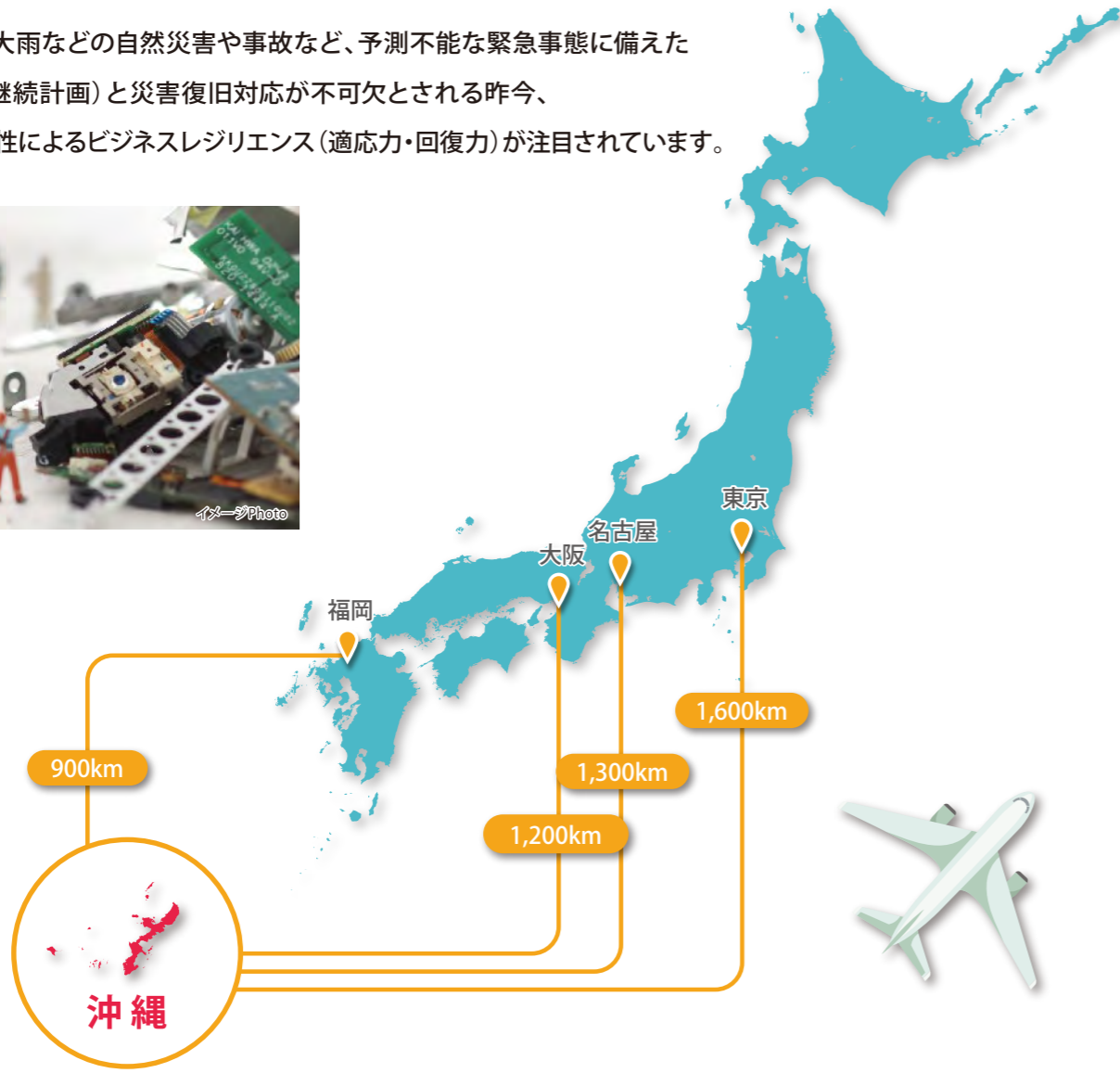


1 沖縄の地理的特性

地震や津波、大雨などの自然災害や事故など、予測不能な緊急事態に備えたBCP対策(事業継続計画)と災害復旧対応が不可欠とされる昨今、沖縄の地理的特性によるビジネスレジリエンス(適応力・回復力)が注目されています。



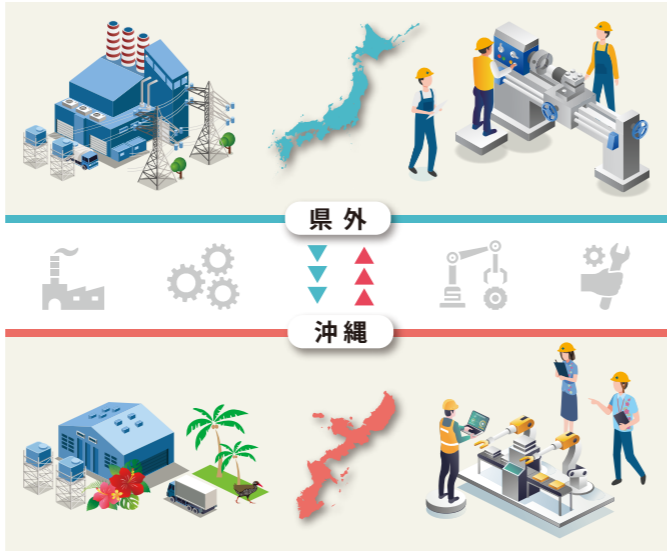
Point 1 本土から距離が離れ同時被災リスクが低い

沖縄県は、日本本土から遠隔地にあるため、本州で大規模な災害が発生した場合にも、同時被災のリスクが比較的低いと考えられています。

実際に本土での大規模な災害を契機として、事業拠点分散地として沖縄に立地された企業や、データのバックアップ及びBCP対策の拠点として沖縄を活用されている企業も複数あります。

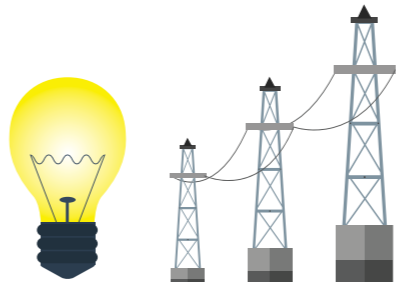
また、行政もリスク分散拠点として沖縄を評価しており、一部の官公庁では、データのバックアップ拠点として沖縄を採択しています。

本州からほどよい距離にあることで災害復旧のスピードを高めることができる利点もあります。沖縄は、災害対策におけるシステムのバックアップや、デュアルセンター(同時運用のオペレーションセンター)として理想的な場所と言えます。



Point 2 本土とは独立した電力供給体制

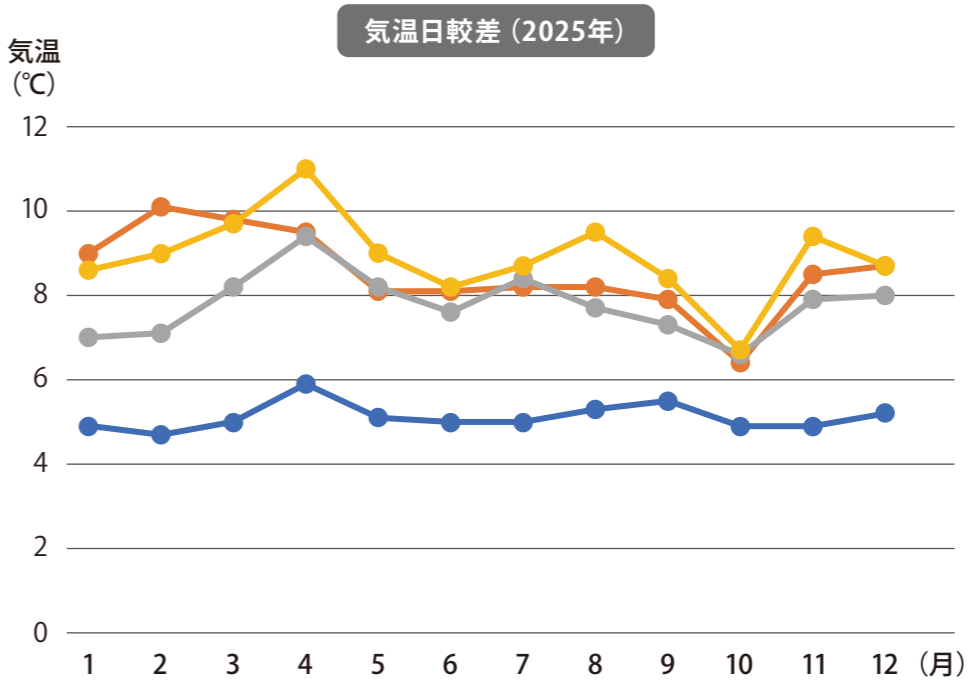
日本本土とは独立し、火力発電を主体に安定した電力供給が行われており、電力不足等による作業の中止やデータ損失といったリスクの低減及び分散が期待できます。



Point 3 安定した気候で過ごしやすい!

日本で唯一の亜熱帯地域に属する県である沖縄は、1年を通じて温暖であり、通常雪が降ることはありません。例えば半導体製造において求められるクリーンルームの環境温度は23度と言われており、沖縄の平均気温に近く、1日の気温差も県外に比べて格段に少ないため、恒温環境を維持するためのコストを削減することができるというメリットもあります。

このように、寒暖差が少ないという気候も、立地するうえでの沖縄独自のメリットとなっています。



年平均気温

23.8°C

● 那覇 ● 東京
● 大阪 ● 名古屋

出所:気象庁(2025)